

# 9条連 ニュース

— 世界へ未来へ —  
Peace Constitution League

Since 1995.8.15

No.348

2024年2月20日 毎月1回 20日発行 1997年4月14日第3種郵便物認可

主な記事

巻頭言 浅井 基文	1
うるま市・勝連分屯地へのミサイル配備と それに反対する住民の闘い 月野 桃子	2,3
GXと原発回帰 藤野 美都子	4,5
9条連近畿北部連絡会報告 稲澤 豊	6
三浦半島9条連報告 石川 雅彦	6
政治展望台 63 高野 孟	7
アーティクルナイン	8

代表 浅井基文/浅野健一/植野妙実子/C・ダグラス・ラムス/常岡せつ子  
中山弘正/樋口陽一/山家悠紀夫/藤野美都子

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13  
目黒さつきビル303号  
TEL 03-5747-9994  
FAX 03-5747-9919



ホームページはこちら

<https://9joren.net/> E-mail:9joren@ams.odn.ne.jp 創刊号1995年1月20日発行 定価100円 年間購読料1,500円(郵送料含む) 郵便振替口座 00160-2-96579「9条連」

昨年10月7日、ガザ地区を統治するハマスが周到な準備の上でイスラエルに仕掛けた大規模な奇襲攻撃に対し、ハマスをテロ組織とするイスラエル・ネタニヤフ政権はハマス根絶を公言して大規模な軍事作戦に訴え、24000人以上の死者(その多くは女性と子供)を生み出した。パレスチナが置かれてきた悲惨な歴史を理解する国際世論はイスラエルを非難している(南アフリカは国際司法裁判所(ICJ)にイスラエルのジェノサイドを提訴)。

第一のポイントは、国際社会のイスラエル批判の対象は反撃行動自体ではなく、反撃の中身だ。

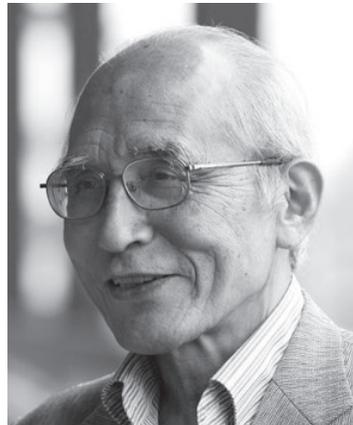
南アフリカはICJ陳述で、イスラエルの反撃が自衛の範囲を逸脱し、ジェノサイド条約に違反すると論じた。中国も「イスラエルの行動は自衛の範囲を超えている」と批判した。ロシアは、イスラエルの自衛権行使の権利を認めつつ、ハマスとイスラエルの「残虐性」「残酷性」を等しく批判した。

第二のポイントは、国際的合意が存在する「二つの国家」実現によるパレスチナ問題の解決だ。

国連総会は1947年11月にパレスチナにユダヤ人国家とアラブ人国家を樹立する決議を採択した。イスラエルの建国強行(1948年)

## パレスチナ問題を 見る視点

浅井基文



否するが、国際的非難転嫁のためネタニヤフ退陣を要求している。したがって、後継政権及び世論が「二つの国家」同意に踏み切ることができると否かがカギとなる。

第四のポイントはサウジアラビア及びイランの去就だ。

サウジは、イスラエルとサウジの国交を通じた中東の平和と安定を目標と見返りにパレスチナ建国の確約を要求する。イランはイスラエルの存在自体を認めず、ハマスの武装闘争路線を支持する。サウジとイランは中国の仲介で関係改善を進めているが、パレスチナ問題に関する立場の違いを埋めることができないれば、中東の平和と安定は画餅に帰する。

第五かつ最大のポイントは「猫(アメリカ)に鈴をつける」ことだ。

アメリカはイスラエルのハマス壊滅作戦を支持する。その中東政策の要はイラン敵視にある。パレスチナを含む中東問題の解決にはアメリカの政策の根本転換が不可欠だ。今後、中東、中東諸国が「猫の鈴付け」役を担えるかどうかで、「二つの国家」実現可能性を含め、中東情勢は大きく左右されるだろう。

あさいもとふみ/元外交官、政治学者